

令和元年度 保幼小連携地区ブロック活動報告書

1 地区ブロック名 総社・清里 地区ブロック
 今年度のテーマ ポイントとなる姿（ 言葉による伝え合い ）

2 地区ブロックの組織（ブロック内学校・園・所名）
 ・認定こども園元景幼稚園 ・認定こども園あおぞら総社
 ・宝塔保育園 ・総社保育園 ・清里保育所
 ・総社小学校 ・勝山小学校 ・**清里小学校**

3 連携推進活動（実施した交流活動等）

日 時	場 所	内 容
9月28日（土）	各小学校	各小学校運動会への参加 （来年度入学予定児が、各小学校運動会にて、かけっこに参加）
○10月24日（木）	清里小学校	保幼小連携 総社・清里地区ブロック研修会 （清里小学校にて、公開授業を参観し、講師の指導や意見交換等の研修を行う）
1～3月	各小学校	小学校見学 （各園所の年長児が小学校を訪問し、校舎内や授業の様子を見学する）
2～3月	各小学校	小学校入学前の情報交換 （各小学校と各園所がそれぞれ行う）

4 令和2年度の代表校園所 【 総社保育園 】

5 これからの保育・教育に生かしたいこと
 ・ 小学校へ上がってくる前の段階のお話も聞けて、想像していた以上にいろいろなことができるようになっていることが分かり、小学校での学習に生かせると思いました。

- ・ 子どもたちの学び合いから、より深い気づきが生まれることの大切さを常に心にとどめて授業を組み立てたいと思いました。
- ・ 先生方は大変ですが、実物を集めたり、実際に材料を集めに出かけたりするという「本物志向」が大切だと思いました。
- ・ どんな活動でも、振り返ったり、課題を見つけたりして次に生かす活動に広げていこうと思います。
- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について学べて良かったです。
- ・ 小学校と園の保育のつながりを感じることができました。これから保幼小の連携ということで自園の保育の中で子どもたちが学び、体験していることをしっかりと小学校に伝え、園と小学校のつながりがより密になっていけるようにしていきたいと感じました。
- ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として「10の姿」と挙げられていますが、あくまでも就学までの成長の目安、目指す完璧な姿ではなく、10の姿は小学校に入学してからも連続して育てていくことであるということ、今回の研修の中で改めて実感しました。
- ・ うまく小学校へつなげるためにも、子ども一人一人の異なる個性、成長のペース、子どもの育ちに応じた対応をしながら、安心感・受容感を感じながら、自信を持って生活できるような働きかけを考えて、育てていくことが保育所、保育士の役割であるとも思いました。幼児期の姿と、小学校の姿をつなげ、子どもたちの成長を連続的なものとして捉えるために、保幼小の連携は大切であることも痛感しました。
- ・ 未満児施設なので小学校への連携と言ってもピンとこない面がありましたが、日常から一人一人を認め、温かい気持ちで受容的に接すること、個々それぞれの発達段階にあったその時々言葉選びや言葉かけはどの機関でもどの教育者でも全て同じ思いで行っているのだと改めて気付かされました。子どもたちそれぞれが、言葉を身につけることで生き方すらも変わっていくことを念頭に置くことが私たち教育者にとってとても大事なことだと感じました。
- ・ 今回の研修を通して日頃の自分の保育はきちんと小学校に上がるまたは子どもの成長につながる保育が出来ているのかを考えました。今は2歳児の副担任をしていますが、話を聞いてほしいときや見てほしいときに手遊びや話

をすることを伝えています。けれど授業を見ていると、話をすると声掛けの後は前回の授業で楽しいことをしたこと、どこにみんなで行ってきたか話すと、たくさんの子どもが様々な発言をしていました。日頃から子どもに優しい笑顔で対応をしていたり、援助をしたりしているからだと感じました。

- ・ グループで話が上手くいくように助言している姿を見て、見守ることや言葉のかけ方で子どもも学びながら言葉が備わっていくことを改めて実感しました。今回の研修を生かし、日頃の保育を大事に行っていきたいと思います。
- ・ 生活科の単元が、教室だけでなく、秋を見つけにグラウンドへ行くなど保育園と似ているところに、送り出す側としての安心感がありました。
- ・ グループの中で「秋と言ったらこれだよね」というものを絞り込むのは、1年生では難しいと思いましたが、「言葉による伝え合い」の様子を見せていただき、自分の意見を言うこと、友だちの意見を聞くことなどの力を、保育の中でも育てていきたいと思いました。
- ・ 先生の優しい言葉掛けで子どもたちをしっかりと引きつけている姿が見られました。先生の言葉掛けには様々な配慮ができていて、一人が話し続けることがないようにグループ内の発表順を決めたり、発表を聞くときに気が散らないように言葉掛けができていました。また、子どもたちから言葉を引き出したり、子どもたちの話を大切に不足しているところは補ったりする姿が見られ、たくさん学ぶことができました。

